

「延世大学スプリングコース派遣参加報告書」

京都大学文学研究科博士後期課程 1 回の Avanzi Maria Carlotta

最初の3日間は京大生だけに向けた韓国語の特別授業が行われた。それは、2級のレベルから4級のレベルまでの人にはいい復習になると思う。しかし韓国語の勉強を始めたばかり人にはレベルがあっていなかったようだ。3日間の特別授業の後で、2級のレベルに入れていただいて、しっかり文法と会話をやった。使用した本もよくて、一日に四時間、2時間は文法の用例を2つ習って、マスターできるようになるまで練習の機会が与えられた。それから、次の2時間は習った文法に基づいて、会話と読解・聞き取り練習をした。毎日宿題も出た：習った文法に関しては文章をつくらないといけない（数は決まっていなかった）。その上、その日に習った内容・文法・表現と語彙を使用して、教科書の指示に従って、作文も作らないといけなかった。先生方は宿題を提出すると、きちんと直してくださった。教科書は3冊で、（文法・聞き取り/読解・会話/書き取り）全て「延世大学 韓国語学堂」というシリーズだった。今まで使用した教科書の中で、もっとも効果があるテキストだと思う。

クラスの雰囲気もよかった。私のクラスは12人の学生からなり、延世大学で既に1年間勉強した学生だった。三分の一は日本人で三分の一は中国人だった。三分の一はヨーロッパ人。一緒に練習した毎日は楽しくて、よく私を受け入れてくれた。短かったけれども文法の復習が有効で、語彙も増えて、会話の能力も少し上達した。文法の先生の教え方もとてもよくて満足した。一年間留学できれば、能力が非常に高まると思う。

そして、授業は朝にあるので、体力があれば、宿題を終えてから午後はソウルを見物できる。個人的に見ても面白いエリアは明洞の近くにある駱山公園（古い城壁の上も散歩できる）とソウル国立博物館だった。そして明洞や仁寺洞や市役所のエリアも見物して楽しかった。私は編み物に興味があるので、大学でやったアクティビティの中で、とくに伝統的な結び方を教えた授業に興味があって、とても面白かった。

第二次世界大戦についてのセミナーのディスカッションも興味深かった。あまり知られていない戦争の時のイタリアの状況について話すことができ韓国・日本の状況と比較できた。しかし、延世大学生は私たちより英語のレベルがかなり高く、みんな初対面でちょっと緊張し、恥ずかしくて、自分の意見を主張した人は京大側から少なかった。次回は、異なる内容についてディスカッションをすれば、結果が変わるだろう。今回の課題の内容は戦争に関するものであったので、今の若者と近くて明るい内容のディスカッションだったら、多分議論が活発になるであろう。その全体ディスカッションのあとで、グループに分かれて、延世大学生が私たちの質問に答えてくれて、文化交流が楽しくできた。後の懇親会の時もみんな楽しく過ごして、仲良くしてくれた。

韓国に行った理由は、言語を習う他に登山と自分の研究のための資料を集めることであった。最初の週末に山登りをした。目的地はソウルから地下鉄・バスで1時間半離れた北漢山という山だった。外国人はあまりいないので、英語の看板も少なく、韓国語の練習にもなった。治安がいいエリアで、人もとても親切で、質問をしたら、優しく答えてくれた。途中で会って一緒に登ってくれた人もいて、楽しくさらに会話の練習ができた。

次の週末には、自分自身の研究テーマである金銅仏の交流史に関して、扶余、広州に出かけて博物館で資料収集をおこなった。広州博物館の近くにある案内所で偶然、研究者と知り合うことができ、今後の研究活動に有益であった。特別に博物館の隣にある百済の王陵の案内と丁寧な説明をしていただいたり、おやつを準備して下さったりして、本当に親切にいただいた。例の研究者との文化交流は日本語と韓国語の両方を使用して行われたので、言語の学びと言語の交流は大事なことでより感じるようになった。

また、博物館でしか手に入らない本を入手することができ、ソウルから日本に郵送した。

大学院生の私にとっても全体的に良い経験だったと思います。延世大学に留学する価値があると思いました。